

三小だより 11月号

全国学力・学習状況調査から

校長 大鳥 清裕

去る10月20日(日)、本校第43回の運動会を開催いたしました。前日には雨が降り、開催が危ぶまれましたが、当日朝には何とか上がり、無事実施することができました。朝早くからお集まりいただきました保護者やご家族の皆様、地域の皆様、ご来賓の皆様に変更してお礼申し上げます。ありがとうございました。子どもたちは大きな行事を一つ終え、今は平常の生活リズムに戻り、落ち着いて学習に取り組んでいるところです。4～6年生は16日に行われる音楽会の練習に頑張っています。運動会で学んだ、「みんなで一つにまとまることの大切さ」をここでも生かして、素晴らしい発表会にしてほしいと思います。



さて、4月に6年生対象に実施しました「全国学力・学習状況調査」の結果が返ってまいりました。現在、本校の結果分析・考察をホームページに載せております。詳しくはそちらをご覧ください。ここではその一部を簡単に紹介いたします。

国語科では、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」問題では正答率が80%を超え、良好な結果でした。一方、「同音異義語」を書く問題や、「ことわざ」を使う問題で課題が見られました。算数では「数と計算」の領域の問題が良好な結果でした。これは本校が基本的な計算問題の反復学習に力を入れてきた結果だと考えられます。しかし、「数量関係」の領域の問題では課題が見られました。

児童質問紙調査では「学級みんなで話し合っ決めて決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか」「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」などの質問で肯定的回答が高い割合を占めていました。これらは本校児童が仲間を大切に、互いを認め合うことができていることを示していると考えられます。また、「話し合い活動」について問う他の質問でも肯定的回答率が高く、本校が授業や学級会で話し合い活動を大切にしている成果が表れています。「国語(算数)の勉強は好きですか」「国語(算数)の勉強は大切だと思いますか」「国語(算数)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」などの質問の回答も良好な結果で、学習に対する前向きな気持ちが読み取れます。

しかし、その一方で「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「家で1日1時間以上勉強する」と答えた児童の数はいずれも少なく、先の「前向きな気持ち」と矛盾する結果になっています。「勉強の大切さはわかっているし、やる気もあるのだけれど、何から始めればよいのかわからない」といった子どもが多いのかもしれない。本校では「家庭学習のすすめ」を年3回配布し、家庭での学習習慣の定着を目指しています。子どもたちが持っている意欲をより主体的な学習につなげていきたいと考えています。保護者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。